われわれは遺族の相互扶助、道義の高揚につとめ、平和日本建設に寄与し、戦争の防止、世界恒久平和の確立を期するを信条とする。

いさお新聞

発行所　〒703-8272
岡山市中区奥市3-22　岡山県遺族連盟
電話代表　086-271-7175
ＦＡＸ　086-271-4815
郵便振替岡山01230-9-3532
発行責任者　岸本清美
編集責任者　豊島始男
印刷所　西尾総合印刷株式会社
定価（郵税共）年額1,200円
ホームページ http://izoku-okayama.jp/

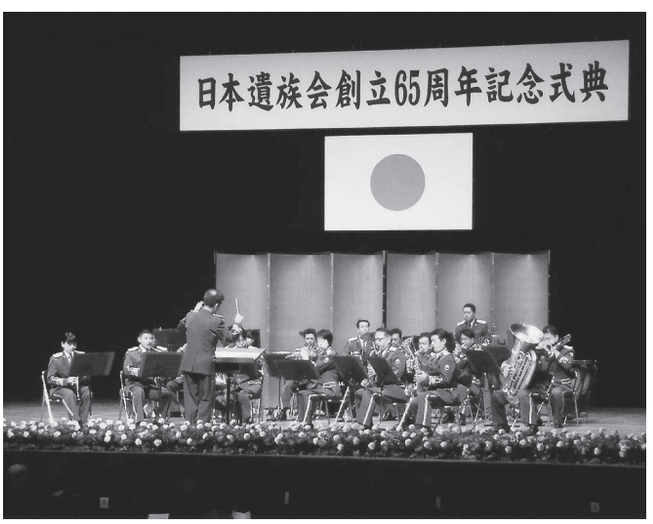
天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ 日本遺族会創立六十五周年記念式典を挙行

日本遺族会創立六十五周年記念式典が九月十八日㈫、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、東京・日本青年館大ホールで執り行われた。

式典には、野田佳彦内閣総理大臣をはじめ、衆参両院議長、最高裁判所長官、全国知事会代表、厚生労働大臣、衆参両院国会議員、そして全国都道府県遺族会の代表（岡山県からは岸本清美会長ら十三名）ら約五百五十名が参列した。

日本遺族会の創立記念式典への両陛下の行幸啓は、四十五周年、五十周年、五十五周年、六十周年に続いて五回目。また、平成十七年に行われた「婦人部・あらたなる出発の集い」では、戦没者の妻の方々に労いのお言葉をいただいている。

遺族会の拠点として、これまで記念式典が行われてきた九段会館が昨年の大震災により閉館になったことから、六十五周年の式典は国立競技場や神宮球場に隣接する日本青年館の大ホールが式場となった。



記念式典は午前十時、畔上和男専務理事の司会により開式。靖國の杜に鎮まる英霊に黙祷を捧げた後、森田次夫副会長が開式の辞を述べた。天皇皇后両陛下をお迎えするため、式典を一旦休憩とする。

両陛下は定刻にホール玄関にご到着になり、参列者全員が起立してお迎えする中、尾辻秀久会長の先導により式場にご臨場になられた。

皇宮警察音楽隊の伴奏により国歌を斉唱。続いて尾辻会長が「本日、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、記念式典を挙行できますことは感激の極みであります。今、日本遺族会は大きな困難に直面しておりますが、今後とも会員一致結束して英霊顕彰と遺族援護に全力を尽くし、戦争を体験した私たちの責務として、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝える努力を続けなければなりません」と式辞を述べた。

続いて、野田佳彦内閣総理大臣、横路孝弘衆議院議長、平田健二参議院議長、竹崎博充最高裁判所長官、全国知事会代表の山田啓二京都府知事からお祝いと激励のお言葉をいただいた。

そして、政府の慰霊事業や慰霊友好親善事業、昭和館の運営等の貢献に対し、小宮山洋子厚生労働大臣から日本遺族会へ感謝状が贈られ、尾辻会長が日本遺族会を代表して感謝状を受領した。

続いて、日本遺族会会長表彰の表彰式が行われ、被表彰者（百三十二名）を代表して宇田川釵雄氏（日本遺族会常務理事／東京都遺族連合会会長）が表彰状を受領した。

ここで尾辻会長の先導により、天皇皇后両陛下がご退場になられる。式場から「天皇皇后両陛下、万歳」の声があがり、これに合わせて参列者一同で万歳を三唱。舞台袖で足を止められた両陛下は、式場に向かわれて会釈され、にこやかにお応えになられた。

両陛下のお見送りのため、一旦休憩後、午前十一時、増矢稔副会長が閉式の辞を述べ、記念式典は滞りなく終了した。

式典終了後、会長表彰被表彰者全員のお名前が発表され、表彰の栄を称えた。そして、午前十一時三十分からは皇宮警察音楽隊による記念演奏が行われ、童謡から懐かしの歌謡曲メドレーなどが披露された。演奏の終盤、会場からアンコールの声と拍手が沸き起こり、音楽隊の演奏の下〝青い山脈〟を全員で合唱し、十二時に記念行事を終えた。

尾辻秀久理事が会長に就任

本紙一一六三号（三月号）でお知らせいたしましたが、二月二十八日に開催された日本遺族会理事会、評議員会において、尾辻秀久理事が会長に推戴されました。しかし、尾辻理事は参議院副議長の要職にあり、尾辻理事から「正式な就任は副議長職を辞職してから」との要請があり、森田次夫副会長が会長代行として業務にあたっていました。

しかし、九月十八日に天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、日本遺族会創立六十五周年記念式典を挙行するにあたり、九月一日付をもって日本遺族会会長に就任いたしました。

なお、森田会長代行は副会長として業務にあたることになりました。

平成25年度政府予算の概算要求
妻・父母への特別給付金の継続にかかる支給事務費計上

財務省は９月７日、平成25年度予算の概算要求を締め切った。概算要求の総額は東日本大震災の復興特別会計と一般会計をあわせて、初めて100兆円を超えて過去最大。政府は年末に向け予算編成を本格化させるが、厳しい財政難の中、財源探しは難航必至となることが予想される。

遺族会関係では、平成25年に償還を迎える戦没者の妻及び戦没者の父母等に対する特別給付金の継続・増額、戦没者遺児による慰霊友好親善事業、平和を祈念するための硫黄島特別対策事業等の遺骨帰還事業といった戦没者慰霊事業の推進などについて予算要求をしているが、本年度の最重点要望事項である「戦没者等の妻及び身寄りのない戦没者の父母等に対する特別給付金」については、概算要求に支給事務費が計上された。

しかし、厳しい財政状況の中、同給付金の継続・増額を必ず勝ち取るためには、年末の予算編成に向けて更なる陳情運動を展開しなければなりません。日本遺族会では、予算編成期前の12月中旬に全国戦没者遺族大会を開催し国会陳情を行うことにしており、本県においても11月17日㈯に行う岡山県遺族連盟創立65周年記念式典終了後、戦没者遺族代表者大会を開催し、要望事項の周知と完全実現を訴えることにしている。

各支部においても、遺族処遇改善の要望事項が平成25年度政府予算に完全計上されるよう、地元選出自民党国会議員に理解と協力を得る陳情をお願いする。概算要求に計上されている遺族会関係項目は下記のとおり。

１．恩給法関係

総務省人事・恩給局は、恩給を支給するための必要経費として、次の通り概算要求をした。

◎恩給支給に必要な経費　（単位：百万円）

本年度予算額		概算要求額	比較増減
543,725	→	480,316	△ 63,409
		（4,803億1,600万円）	
内訳			
①恩　給　費			
541,974	→	478,805	△ 63,169
②支給事務費			
1,750		1,510	△　240

㈱　恩給受給者数（互助年金を含む）

	（24年度）	（25年度）	（対前年度増減）
恩給受給者	699千人	→ 631千人	△68千人

２．厚生労働省関係（恩給に関連する遺族年金等を除く）

⑴　戦没者等の妻・戦没者の父母等に対する特別給付金の継続

（支給事務費）

本年度予算額　０万円　→　概算要求額　9,900万円

⑵　遺骨帰還等関係

本年度予算額　15億6,700万円　→　概算要求額　15億5,200万円

（内、旧ソ連地域の慰霊事業等２億6,600万円）

（内､平和を祈念するための硫黄島特別対策事業９億6,700万円）

《主な内容》

＊遺骨帰還等地域（15地域）

①フィリピン､②東部ニューギニア､③ビスマーク・ソロモン諸島、④パラオ、⑤インドネシア、⑥トラック諸島、⑦沖縄、⑧硫黄島、⑨モンゴル、旧ソ連地域（⑩ハバロフスク、⑪沿海、⑫イルクーツク、⑬アムール、⑭ケメロボ、⑮カザフスタン共和国）

＊海外未送還遺骨情報収集事業

＊慰霊巡拝（12地域）

①フィリピン､②東部ニューギニア､③ビスマーク・ソロモン諸島､④インドネシア、⑤ミャンマー、⑥モンゴル、⑦中国、⑧硫黄島、旧ソ連地域（⑨ハバロフスク、⑩沿海、⑪アルタイ、⑫クラスノヤルスク）

＊慰霊碑補修等（２カ所）

補修調査　①サイパン

補修工事　①沖縄

＊戦没者慰霊碑維持管理（15カ所）

＊遺骨、遺留品の伝達

＊戦没者遺骨に係るDNA鑑定

⑶　戦没者遺児による慰霊友好親善事業

本年度予算額　２億8,300万円　→　概算要求額　２億8,300万円

（内　訳）

＊広域地域　14地域　→　14地域

＊特定地域　３地域　→　３地域

＊人　員

広域　792人及び　→　広域792人及び

特定地域　108人　→　特定地域108人

内、民間建立慰霊碑等整理事業

1,100万円　→　1,100万円

⑷　昭和館の運営費

本年度予算額　４億3,800万円　→　概算要求額　４億3,200万円

⑸　全国戦没者追悼式挙行経費

本年度予算額　１億3,500万円　→　概算要求額　１億3,500万円

（１県当たり国費参列者50人の2,350人）

全国戦没者追悼式に参列して

倉敷市茶屋町　中島　滋

八月十五日の終戦の日に東京の日本武道館で行われる全国戦没者追悼式へ、茶屋町遺族会から一人の参列枠があるということで、佐藤会長から、「中島さん行ってくれませんか」とご案内をいただきました。私も八十四歳、これが最期になるかも知れないと思い、参列させていただくことになりました。ところが、岡山県の参列遺族代表九十人の内、私が最年長ということで、県代表として献花者にも選ばれた次第です。

八月十四日の朝九時、岡山駅に県下各地からご遺族が集合しました。

「山陽新聞の記者ですが」と、私に声がかかりました。他のテレビ局の記者やカメラマンも数名、私の所へやってきました。「岡山県代表の方ですね。ちょっとお話しを聞かせてもらってよろしいでしょうか」とマイクを向けられました。岡山県の献花者としてのインタビューというので驚きましたが断る訳にもいかず、質問に答えました。

遺族として、どんな思いで式典に参加されるのか、というお尋ねです。私は、グアム島で私の兄が戦死したこと、岡山県からは九十名が参列すること、遺族として式典を行っていただき有り難く思っていること、戦争による不幸は二度とあってはならないことなどを話しましたが、初めての経験なので緊張しました。

十時十四分発の新幹線は、山口県で記録的な豪雨があったため、東京駅に約一時間遅れで到着いたしました。靖國神社へ参拝後、宿舎に入り説明会に臨みましたが、朝から色々なことがあったからか、疲れて早々に寝所に入りました。

いよいよ八月十五日。戦没者追悼式の日です。武道館の前は人、人という感じです。テレビカメラが何台も据えられていました。

献花者である私は参列団と分かれて、一階前列にある献花者席に案内されました。中国五県の献花者と共に、前から四列目の中央付近に着席し、献花のリハーサルに臨みました。野田総理をはじめ全閣僚、共産党を除く各党の代表も最前列に着席。全閣僚の参列は民主党政権になって初めてだということでした。政界や各界の要人を間近で見るというのは、勿論私にとって初めてのことで貴重な体験でした。

式典は十一時五十分に開式になり、全員が起立して天皇皇后両陛下をお迎えし、国歌を斉唱。続いて、野田総理が式辞で「日本は平和を貫き通し、二度と戦いの過ちは繰り返しません」と、落ち着いた口調で自分の決意を述べました。

両陛下が中央祭壇にお立ちになり、正午の時報を合図に御霊に黙祷を捧げた後、天皇陛下から「過去の不幸な戦争を思うとき、国を思い命を投げ出された皆様に深く哀悼の意を捧げます」と「おことば」をいただきました。

七千人の参列者で埋まった場内はシーンとして、咳払い一つありません。自然と頭が下がり目頭が熱くなりました。

そして、総理をはじめ各界の方々の献花に続いて参列遺族代表の献花となり、私は中国五県の三番目、岡山県とのアナウンスがあり壇上に進みました。広い舞台は一杯の菊花で飾られ見事でした。

戦後六十七年、戦争を知らない世代が国民の八割を超え、戦没者の遺児も七十歳を超える時代となりました。戦争の記憶も次第に薄れています。戦争の不幸を後世に伝え、風化させないよう、今後とも戦没者の慰霊追悼行事は続けていただきたいと念願いたします。

日本遺族会会長表彰受賞　おめでとうございます

◎県連盟評議員・津山市遺族連合会副会長
小椋章光氏

◎県連盟評議員・瀬戸内市遺族連合会女性部長
佐藤悦子氏

◎総社市遺族連合会副会長・事務担当者
横田秀夫氏

九月十八日に東京・日本青年館大ホールで執り行われた日本遺族会創立六十五周年記念式典において日本遺族会会長表彰の表彰式があり、岡山県からは戦没者遺族援護に功労のありました小椋章光氏（県連盟評議員）、佐藤悦子氏（同）、横田秀夫氏（総社市副会長・事務担当者）の各氏が表彰の栄誉を受けられました。

長年のご尽力に心より感謝申し上げますと共に、ご英霊の慰霊顕彰並びに遺族援護に更なるお力添えを賜ります様お願い申し上げます。

遺族会の動き

平成二十四年九月行事表

3日　県戦没者秋季慰霊祭準備委員会（いさお会館）
6日　浅口市郡遺族連合会役員研修旅行（島根県方面）一泊
　　新見市草間地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
11日　県連盟正副会長・常任理事会議（県連盟会議室）
15日　県連盟理事・評議員・監事合同会議（県連盟会議室）
　　瀬戸内市遺族連合会女性部長会議（瀬戸内市中央公民館）
17日　「敬老の日」県連盟老人福祉事業／身寄りのない父母及び一人暮らしの妻慰問（県下）
18日　県連盟正副会長・常任理事合同会議（東京都内）
　　日遺創立六十五周年記念式典（東京・日本青年館）
19日　倉敷市玉島遺族連合会研修旅行（愛媛県方面）一泊
21日　岡山陸軍墓地秋季彼岸祭（岡山市津高・岡山旧陸軍墓地）
22日　県連盟老人福祉事業／百歳遺族お祝（県下）二日間
25日　高梁市川面地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
26日　玉野市戦没者追悼式（玉野市民会館）
　　高梁市成羽地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
29日　浅口市戦没者追悼式（浅口市中央公民館）

平成二十四年十月行事表

1日　中・四国ブロック遺族会会議（ホテルグランヴィア岡山）一泊
5日　県戦没者秋季慰霊祭（県護國神社）
　　津山市戦没者追悼式（津山市総合体育館）
　　高梁市高梁地区護國神社参拝（県護國神社）
6日　県護國神社秋季例大祭（県護國神社）
11日　日遺理事会、評議員会（靖國会館）
16日　新見市神郷地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
17日　日遺支部事務局長・職員研修会（愛媛県）一泊
　　赤磐市戦没者遺族大会（赤坂健康管理C）
18日　千鳥ケ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭（千鳥ケ淵戦没者墓苑）
19日　倉敷市戦没者追悼式（倉敷市民会館）
20日　新見市新見地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
　　新見市熊谷地区戦没者慰霊祭（下熊谷八幡神社）
21日　新見市哲西地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
23日　新見市石蟹郷地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
　　新見市哲多地区戦没者慰霊祭（哲多総合C）
25日　真庭市勝山支部戦没者慰霊祭（県護國神社）
　　英霊にこたえる会中・四国ブロック会議（サンピーチ岡山）一泊
　　井原市遺族連合会靖國神社団参（東京方面）一泊
26日　久米郡美咲町戦没者慰霊祭（県護國神社）
　　笠岡市大井地区戦没者慰霊祭（大井公民館）
27日　津山市高田地区戦没者慰霊祭（高田神社忠魂碑）

平成二十四年十一月行事表

5日　笠岡市今井地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
7日　新見市豊永地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
9日　瀬戸内市戦没者追悼式（ゆめトピア長船）
17日　県連盟創立六十五周年記念式典・県戦没者遺族代表者大会（岡山衛生会館）
　　沖縄戦跡慰霊巡拝／「岡山の塔」追悼式（沖縄県）二泊
22日　浅口市郡遺族連合会女性部研修会（鴨方町内）
28日

「岡山の塔」戦没者追悼式/沖縄戦跡慰霊巡拝参加者募集

岡山県遺族連盟では毎年、県補助事業により沖縄本島南端・摩文仁の霊域に建立されている「岡山の塔」において「沖縄並びに南方諸地域岡山県出身戦没者追悼式」を執り行い、国難に殉ぜられた本県出身戦没者をお慰めし、世界恒久平和実現をお誓いしています。

平成24年度は11月22日㈭から24日㈯の日程で沖縄県の各戦跡地を巡り、23日㈮には「岡山の塔」に岡山県及び沖縄県の関係ご当局のご臨席をいただき、戦没者追悼式を挙行いたします。

苛烈な戦いに倒れられた郷土出身戦没者の御霊に感謝の誠を捧げたいと存じますので、多くの皆様方のご参加を賜りますようご案内申し上げます。

月　日	巡　拝　日　程	宿泊先
11/22 ㈭	岡山駅西口又は岡山空港集合 ～ 岡山空港発（８：15） ジェット機 那覇空港着（10：10） ～ 沖縄県護国神社参拝 ～ 南部戦跡巡拝（陸軍病院伊原第一外科壕、喜屋武岬・平和の塔、魂魄の塔、沖縄陸軍病院の塔、旧海軍司令部壕） ～ 宿舎着（17：00）頃	那覇市 ダイワネットホテル 那覇国際通り
11/23 ㈮	宿舎発（８：30） ～ 摩文仁 ～ 黎明の塔・健児の塔 ～ 国立沖縄戦没者墓苑参拝 ～「岡山の塔」戦没者追悼式 ～ 平和の礎 ～ ひめゆりの塔 ～ 那覇・泊港 高速船 座間味港 ～ 宿舎着（16：30）頃	座間味島 ケラマビーチホテル
11/24 ㈯	宿舎発（８：20） ～ 平和の塔 ～ 座間味港 高速船 那覇・泊港 ～ 浦添城跡 ～ 識名園 ～ 泡盛まさひろギャラリー ～ 那覇空港発（18：20） ジェット機 岡山空港着（20：15） ～ 岡山駅西口（21：00）頃	

◎参加経費　48,000円也（遺族会会員お一人経費）
上記以外の方は10,000円の追加経費でお受けいたします。

◎申 込 先　県遺族連盟まで／住所、氏名、年令、性別、電話番号、戦没者との続柄、戦没者の氏名、戦没場所、集合希望場所（岡山駅西口又は岡山空港）をお知らせ下さい。

◎申込締切　10月22日㈪まで　　◎募集人員　60名程度

※上記日程は交通機関等の都合により変更になる場合があります。

秋の慰霊祭前に清掃奉仕

岡山県護國神社がある岡山市の各遺族会では毎月、分担して神社境内の清掃を行っており、また、春と秋の戦没者慰霊祭前や年末にも遺族会や各企業の職員により清掃奉仕をいただいております。

本誌でもお知らせしたことがありますが、岡山市津高地区にある岡山陸軍墓地では、地元の津高遺族会の皆様が春秋の彼岸祭前に墓地の清掃や樹木の伐採などを行っています。同墓地の清掃は、過去に地元婦人会の皆様により行われていましたが、会員の高齢化等、諸般の事情により津高遺族会が婦人会に代わって続けており、この秋は九月十七日に二十九名が参加し、五百二十七柱のお墓や慰霊塔周辺の清掃、参道両側の木々の伐採などに汗を流されました。

しかし、津高遺族会でも会員の高齢化は否めず、役員からは「将来の墓地管理のことを思うと、近隣の遺族会への呼びかけや、特に若い世代の参加が必要となってくる。また、国に殉じた方々のお墓という性格上、公的機関が管理するのは当然との声もある。戦没者の慰霊顕彰と法律論とは全く別次元のこと」と墓地の将来を心配する。

春秋の岡山陸軍墓地彼岸祭への参列や同墓地清掃奉仕についてのお問い合わせは岡山県戦没者顕彰会（☎〇八六―二七一―七一七五）まで。

清掃奉仕に汗を流された津高遺族会の皆さん
（９月17日：岡山陸軍墓地）

お詫び

八月から九月にかけて多くの行事が重なったため本紙の発行が大幅に遅れました。購読者の皆様方に深くお詫び申し上げます。